経営・人事

新人脈地脈

モノづくり応援隊ｉｎ大田区（東京）

ITで中小経営支援

中小製造業が密集する東京都大田区。特定非営利活動法人（NPO法人）「ITコーディネータ協会」（東京・港）に登録するIT（情報技術）や経営の専門家が「モノづくり応援隊ｉｎ大田区」を立ち上げた。経営効率化や人材育成に悩む中小企業の経営者にとって、心強い支えになっている。

「ITコーディネータ」は、ITコーディネータ協会がITと経営に精通した人材を認定する資格で、現在、登録者は全国で約六千三百人いる。同協会事務局の前田幸穂氏（62）が旗振り役となり、このITコーディネータを「モノづくり応援隊ｉｎ大田区」のメンバーとして公募したのは二〇〇五年七月。

ＩＴコーディネータの田中憲之氏（左から２人目）から指導を受けた安久工機の田中務部長（同４人目）

前田幸穂氏

なぜ大田区だったのか。「ITコーディネータの全国大会の場所探しをしていた時、たまたま大田区の会場が空いていたから」と前田氏は笑う。発端は単なる偶然だったが、メンバーとして全国からはせ参じた十五人のITコーディネータの思いは「大田区で中小企業のモノづくりに貢献したい」と熱い。

サイトを刷新

松浦貴之氏

企業は当初の四―五回は無料でITコーディネータの支援を受けられる。その後は経済産業省や大田区からの補助金を利用し、有料で指導を受ける。現在六社が指導を受けている。IT活用はあくまで手段で、「目的は経営課題を企業と一緒になって解決すること」（前田氏）だ。

小野敏夫氏

「売り上げを伸ばすための客観的アドバイスを求めていた」。機械設計が主業務の安久工機の田中務部長（42）は、モノづくり応援隊の指導を受けた理由を語る。社員七人の同社は人工心臓や工事現場などで使う折り畳み式カラーコーンなど独自性のある製品を手掛けているが、従来、顧客獲得は「口コミ」頼み。外向けの営業には力を入れてこなかった。

安久工機を指導したのは、自動車部品メーカーの開発部門でIT導入担当者を務めた経験がある田中憲之氏（63）。田中氏は同社が既にホームページを開設していたことに注目、「一ページ目が肝心」と助言した。一ページ目に製品紹介や会社概要を盛り込み手直しした。

さらに、検索結果リストの上位に掲載されるような仕組みも導入、最近は改善前の十倍のアクセス数を記録するようになった。ホームページを見て注文を出す新規顧客も増えているという。

「優工場」に選出

機械部品を精密加工する松浦製作所もモノづくり応援隊の支援を受けた。〇五年に父から引き継いで社長に就任した松浦貴之氏（41）は「経営全般について勉強しなければという思いはあったが手段が分からなかった」と振り返る。

社長就任直後にモノづくり応援隊の小野敏夫氏（62）から電話を受け、「初めはうちには関係ないと思った」（松浦社長）。だが、航空機メーカーや外資系ソフト会社を渡り歩いた小野氏と面談を重ね、精密微細加工で競争力を維持するという明確な目標が定まった。

アドバイスを受け、受注部品の設計図に番号を付け簡単に図面が取り出せるようにするなど、事務作業の効率化を進めた。努力が実り松浦製作所は昨年、大田区が技術や経営に優れた工場を認定する「優工場」に選ばれた。松浦社長は「会社への信頼が高まり受注も増えた」と喜ぶ。今では小野氏を「先生」と呼び信頼を寄せる。ITコーディネータ協会の前田氏は「今後は異業種交流会などにも支援先を広げたい」と意気込んでいる。（杉原梓）

経営情報ファイル

▼中小企業のための知的財産権活用講座　東京商工会議所（電03・3283・7650）が六月二十一日、東京・新宿の発明学会ビルで開く。発明学会会長の中野勝征氏を講師に迎え、特許や商標など知的財産の説明から活用法、実際の登録方法などについて学ぶ。参加費は一般二万九千円。

▼二〇〇七年度　取締役セミナー　SMBCコンサルティング（電0120・398・821）が七月二十六―二十七日、東京・千代田のグランドアーク半蔵門で開く。新任の取締役や執行役員を対象に、知っておくべき法律知識や社員のモチベーションを高める方法などを学ぶ。参加費は一般十四万七千円。

▼社員の精神疾患をめぐる法律と実務対応　みずほ総合研究所（電03・3591・7514）が六月十五日、東京・港の航空会館会議室で開く。労働事件に詳しい石嵜信憲弁護士が従業員のメンタルヘルスの管理で、人事労務担当者や現場の管理職が知っておくべき法的実務について話す。参加費は一般三万三千六百円。

ビズテク塾

ミドルマネジメントを鍛える　5

「ミニ経営チーム」時代に